

大学の敬愛する先輩であり、私の研究者としての Mentor であり、ヒトがん免疫療法の盟友である 珠玖洋先生を偲んで、先生のご略歴を紹介しながら、先生の研究の流れやお人柄をご紹介させていただきます。

故 珠玖 洋 先生 ご略歴



1943年	滋賀県 生まれ
1967年	名古屋大学医学部卒業
1968-1971年	名古屋大学医学部 第一内科入局
1972-1979年	NYスローンケタリング記念癌研究所(MSKCCI)
1979-1984年	名古屋大学 血液内科医として診療、白血病細胞抗原の解析
1984-1986年	長崎大学医学部（原医研）免疫学講座 教授
1986-1995年	長崎大学医学部・腫瘍医学 教授
1994-2006年	三重大学医学部第二内科 教授
2006-2015年	産学連携講座「遺伝子・免疫細胞治療学」 寄附講座「がんワクチン治療学」（財団法人CRI）教授
2015-2022年	三重大学複合的がん免疫療法リサーチセンター(特任教授)
2022年9月4日	逝去(享年 79歳)

珠玖先生は 1943 年に滋賀県のお生まれです。名古屋大学に入学後は当時人気と実力を兼ね備えた男性合唱団に入部し、活躍されました。先生のテノールの若々しく華やかでエネルギッシュなお声と堂々とした態度はこの時期に培われたものと思われま

先生は 1972 年から NY のスローンケタリング癌研究所(MSKICC)で 7 年間の留学生活を送られております。当時はベトナム戦争の真ただ中で治安が非常に悪い状況でした。しかし研究では“近代がん免疫学の父“と言われた Lloyd Old 博士の下で存分に活躍され、メラノーマがん患者血清から科学的にヒトがん特異抗原を発見に成功されました(J Exp Med 1976)。オールド先生と珠玖先生の師弟関係はゆるぎないものでした。SKI 留学時代にオールド先生の下で、珠玖先生の生涯に亘る研究生活の礎が形成されたと思います。

1979 年母校の名古屋大学血液内科に帰国され、その名声が全国に轟き、縁あって長崎原医研研究所免疫学教授に招聘されております。長崎大学では 1986 年に全国初の腫瘍医学講座を開設することになり珠玖先生が初代教授として任命されました。院生と共に「がん遺伝子、がん抑制遺伝子の研究、がんに対するキラーT細胞免疫反応の研究」で多くの基礎免疫学の業績を上げてこられました。その後、1994 年に珠玖先生は免疫学の基礎研究の成果を臨床応用するトランスレーショナル・リサーチ(TR)を展開するため、強い思いで、三重大

学医学部第二内科学教室の教授に就任されました。

三重大学では TR 研究課題として「がん免疫の研究、新規がんワクチン疎水化多糖—がん抗原蛋白複合体ワクチンの開発研究、DNA ワクチンの基礎的研究」を精力的に継続され、満期退職後には産官学連携講座（遺伝子・免疫細胞治療学）教授として、がん特異的 T 細胞レセプター遺伝子導入 T 細胞による免疫細胞療法の開発に専念、および寄附講座（がんワクチン治療学）教授として「がんワクチンおよび細胞療法の開発研究から TR」などの研究を実装化すべく、多彩な企業や多くの内外のアカデミア研究者との共同研究のみならずご自分でベンチャー企業の立ち上げにも尽力されました。そればかりか、日本で自前の新規ながん治療法を行うために AMED からの委託事業として、日本のがん免疫治療の規範となる「がん免疫療法開発のためのガイドンス作成」なる報告書を 2019 年に完成され、それがその後の日本のがん免疫療法開発の指針となっております。

先生の 50 年に亘るがん免疫研究成果が患者さんに提供される日が現実味を帯びてきたこの時期に先生が急逝されたことは、先生のお気持ちを察するにさぞかしご無念なことであつたろうと拝察いたしております。

しかし先生がニューヨーク、名古屋大学、長崎大学時代、それに最後まで全力投球されていた三重大学時代までに育成された多くの門下生や共同研究者が今や日本のがん免疫研究の牽引者となり、日本から世界に斬新な情報発信を行っておられます。

アカデミアにおける珠玖洋先生は、常に真実・本質を知りたいという”科学者としての美学を追求“されてこられました。本物志向の珠玖先生と研究を共にされた方々は、“Why don't you do the experiment?”、“What's next?”、“Data でものを言いなさい、何があっても研究は止めてはいけません！”などと叱咤激励されながら、立派な研究者になられておられます。これら多くの後進の育成こそは、先生の教育者としての最大のご功績だったと思います。

科学者として、また教育者としての珠玖洋先生の生きざまに心より敬意を表しますと共に、人間 珠玖洋 先輩の心意気を心から敬愛致しておりました。

これからもどうか、がん免疫の将来をお見守りください。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌